

## 実践衛生薬学

責任者・コーディネーター	衛生化学講座 名取 泰博 教授		
担当講座・学科(分野)	衛生化学講座、薬剤治療学講座、衛生学公衆衛生学講座		
対象学年	4	区分・時間数	講義 16.5 時間
期間	後期		
単位数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

衛生薬学は応用分野の学問であり、薬剤師の実務においても学校薬剤師や保健所などの業務では重要な領域となっている。本講義では2、3学年で学んだ衛生薬学分野の科目の応用編として、現場に即した内容を講義する。

### ・教育成果（アウトカム）

これまでの衛生関連科目で学んだ内容を再確認し、併せてそれらが薬剤師の実務においてどのように応用されているかを把握することにより、地域や学校における公衆衛生の向上に貢献できるようになる。  
(ディプロマ・ポリシー：3,4,7,9)

### ・到達目標（SBO）

1. 医療現場における疫学の応用について、例を挙げて説明できる。(☆)
2. 食中毒の発生原因と予防方法について説明できる。(☆)
3. 代表的な食品汚染物質や乱用薬物とそれらの試験法について説明できる。(☆)
4. 代表的な食品成分や食品添加物とそれらの試験法について説明できる。(☆)
5. 食事摂取基準を理解し、その活用と栄養管理指導について説明できる。(☆)
6. 地域や学校における良好な水環境の維持及び改善の概要について、説明できる。(☆)
7. 地域や学校における良好な空気環境の維持及び改善の概要について、説明できる。(☆)
8. 感染性廃棄物とその取り扱い及び廃棄の方法について説明できる。(☆)
9. 公衆衛生における感染症予防の概要を説明できる。(☆)

### ・講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
8/30	水	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	概論, 疫学 1. 疫学の研究方法を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。 2. 疫学におけるバイアスと交絡について、具体例を挙げて説明し、その主な制御法を概説できる。

8/30	水	2	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食事摂取基準と栄養管理 1. 食事摂取基準を理解し、その活用法と栄養管理指導について説明できる。
9/6	水	1	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食中毒 1. 食中毒の発生原因と予防方法について説明できる。
9/6	水	2	医学部衛生学 公衆衛生学講座	丹野 高三 准教授	コホート研究など疫学研究の実際 1. 大規模な疫学研究の実例とそこから得られる知見を知ることにより、疫学の有用性について、例を挙げて説明できる。
9/13	水	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	感染症（検疫感染症, 予防接種など）と生活習慣病 1. 感染症及び生活習慣病を概説し、最近特に問題となっている疾患について具体例を挙げて説明できる
9/13	水	2	衛生化学講座	千葉 寛 非常勤講師	保健所の薬剤師業務における衛生薬学 1. 食中毒などの食品衛生管理や水質検査など公衆衛生管理に関わる保健所の業務や役割について説明できる。
9/20	水	2	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食品汚染物質と乱用薬物 1. 代表的な食品汚染物質や乱用薬物とそれらの試験法について説明できる。
9/27	水	2	衛生化学講座	米澤 正 助教	飲食物試験法 1. 食品成分の変質機構とその試験法について説明できる。
10/4	水	1	薬剤治療学講座	手塚 優 助教	学校薬剤師の業務 1. 学校薬剤師の業務の概要を説明できる（保健衛生）。 2. 学校における良好な水環境や空気環境の維持及び改善の概要について、説明できる（環境衛生）。
10/4	水	2	衛生化学講座	川崎 靖 助教	環境衛生(1)（水環境） 1. 水道水の原水の種類、水の浄化法、水質基準について、特徴を説明できる。 2. 下水処理及び廃水処理の主な方法について説明できる。 3. 水質汚濁及び富栄養化の原因を挙げ、対策を説明できる。

10/11	水	2	衛生化学講座	名取 泰博 教授	環境衛生(2) (空気環境, 感染性廃棄物) 1. ヒトの健康に及ぼす大気環境及び室内環境について、具体例を挙げて説明できる。 2. 感染性廃棄物の取り扱いについて具体例を挙げて説明できる。
-------	---	---	--------	----------	---

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	衛生化学詳解(上、下)	浅野 哲 他	京都廣川書店	2014
参	必携・衛生試験法	日本薬学会 編	金原出版	2011

・成績評価方法

定期試験(100%)から評価する。

・特記事項・その他

講義時に配布するプリント、宿題、教科書などを用いて復習をして下さい。提出された宿題プリントは、添削・採点して返却し、解説を行う。宿題プリントには、講義に関する学生の要望の記入欄を適宜設け、要望を講義に反映する。授業に対する事前学修(予習・復習)の時間は最低30分を要する。

## 薬事関係法規・制度2

責任者・コーディネーター	臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学講座、情報薬科学講座		
対象学年	4	区分・時間数	講義 13.5 時間
期間	後期		
単位数	1 単位		

### ・学習方針（講義概要等）

患者の生命に関わる医療の担い手として薬剤師がその使命を果たすためには、薬剤師としての倫理・責任を自覚し、保健・医療・福祉に係る多くの関連法規と制度について理解し、義務及び法令を遵守することが大切である。そのため、薬剤師業務に必須な関連法規および医療関連制度の基本的知識を修得するとともに、義務及び法令を遵守する態度を身に付ける。特に、薬事関係法規・制度2では、薬害と副作用救済制度、医療行政のしくみと役割や医療保険制度を含めた社会保障制度、医薬品開発と生産を取り巻く環境とともに、基本的な医薬品開発の流れについて学習する。

### ・教育成果（アウトカム）

薬剤師としての保健・医療・福祉に係る関連法規と制度、医薬品開発と生産と制度、またこれらを取り巻く環境を理解することで、医療における薬剤師の果たす役割を俯瞰することができ、また患者の権利や安全を確保するためのしくみと役割を理解することで、変化する環境の中で適切に医療に寄与できるようになる。  
(ディプロマ・ポリシー：1,2,3,4,9)

### ・到達目標（SBO）

1. これまでに起きた薬害について概説できる。
2. 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を説明できる。
3. 製造物責任法を概説できる。
4. 社会保障制度のしくみを説明できる。
5. 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。
6. 介護保険制度、高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。
7. 診療報酬と薬価基準、保険薬局と療養担当規則について説明できる。
8. 医療保険の成り立ちやしくみを説明できる。
9. 医療保険の種類を列挙できる。
10. 国民医療費の動向や内訳を説明できる。
11. 診療報酬と薬価基準について説明できる。
12. 後発医薬品の意義について説明できる。
13. 薬物治療の経済評価手法を概説できる。
14. 医薬品開発のコンセプトと生産の流れについて概説できる。
15. 医薬品の承認について説明できる。
16. 治験の意義と業務、薬剤師の役割について説明できる。
17. 販売承認後の安全対策について説明できる。
18. 医療行政のしくみと役割を概説できる。(☆)

19. レギュラトリーサイエンスを概説できる。(☆)  
 20. 人を対象とする研究における倫理指針や患者情報の取扱い等について概説できる。(☆)

・ 講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
8/31	木	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬害と医薬品副作用救済制度、PL 法 1. これまでに起きた薬害について概説できる。 2. 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を説明できる。 3. 製造物責任法を概説できる。
9/5	火	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	社会保障制度、介護保険制度、高齢者医療制度など 1. 社会保障制度のしくみを説明できる。 2. 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。 3. 介護保険制度、高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。
9/7	木	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	医療保険制度：診療報酬、薬価基準、保険薬局と療養担当規則 1. 医療保険の成り立ちやしくみを説明できる。 2. 医療保険の種類を列挙できる。 3. 診療報酬と薬価基準、保険薬局と療養担当規則について説明できる。
9/12	火	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済・医療統計(1)：国民医療費、後発医薬品 1. 国民医療費の動向や内訳を説明できる。 2. 後発医薬品の意義について説明できる。
9/14	木	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済・医療統計(2)：経済評価の手法 1. 薬物治療の経済評価手法を概説できる。
9/21	木	1	臨床薬剤学講座	佐藤 信範 非常勤講師	医療行政、レギュラトリーサイエンス 1. 医療行政のしくみと役割を概説できる。(☆) 2. レギュラトリーサイエンスを概説できる。(☆)

9/26	火	1	情報薬科学講座	西谷 直之 准教授	医薬品の開発と生産 (1) : 医薬品開発のコンセプト 1. 医薬品開発のコンセプトと生産の流れについて概説できる。
9/28	木	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	医薬品の開発と生産 (2) : 医薬品の承認と治験 1. 医薬品の承認について説明できる。 2. 治験の意義と業務、薬剤師の役割について説明できる。
10/5	木	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	医薬品の開発と生産 (3) : 医薬品の安全対策 1. 販売承認後の安全対策について説明できる。 2. 人を対象とする研究における倫理指針について概説できる。(☆) 3. 患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。(☆)

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬学と社会 2018	薬学教育センター 編	評言社	2017
参	薬事法規・制度及び倫理解説	薬事衛生研究会	薬事日報社	2017
参	医薬品の開発と生産	永井 恒司、園部 尚 編	じほう	2010

・成績評価方法

定期テスト (90%) と小テスト (10%) の合計で評価する。また、小テストは形成的評価にも使用する。

・特記事項・その他

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。  
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題を確認し、まとめておくこと。  
授業に対する事前学修 (予習・復習) の時間は最低 30 分を要する。  
小テストに関しては、授業で解説し、フィードバックを行う。  
講義は教科書に基づいて行い、必要に応じて資料を配布する。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（Apple MacBook Air）	1	スライド投影